



★投与時に注意が必要な抗がん剤

タキソール→ランダ、アドリアシン→タキソールの投与順序
逆の投与順序の場合骨髄抑制が増強
ジェムザール：30分かけて投与。（60分以上だと副作用増強）
アイソボリン+5-FU：アイソボリンを2時間かけて投与。

★配合変化

ダカルバジン 他剤との混合により結晶析出など外観変化を生じることが多い。
特にアルカリ性の注射液との配合で主薬が析出する。

★休薬期間が必要な抗がん剤

ダカルバジン 悪性黒色腫：5日間連日投与、以後4週間休薬
ホジキン病：1回投与後13日間休薬

ティーエスワン 28日連日投与、その後14日間休薬あるいは7日間休薬

ジェムザール 週1回投与を3週連続し、4週目は休薬

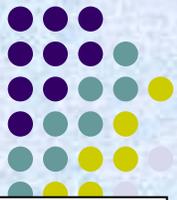
アクプラ 少なくとも4週間休薬

★臨床検査値の確認が必要な抗がん剤

リツキサン 1週間間隔で投与、最大投与回数は8回

ゼロータ 21日間連日経口投与し、その後7日間休薬

抗がん剤の疑義照会事例 (A大学病院)



2000年6月から2001年3月まで(10ヶ月間)の処方箋枚数 80,738 枚

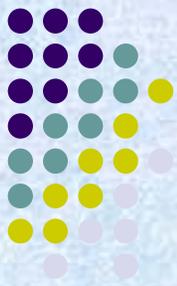
抗がん剤の処方箋枚数 3,057枚

抗がん剤の疑義照会件数 131件

疑義照会により訂正された件数 28件

専門家の目

内容	件数
1.投与量の間違い	9
2.薬品の間違い	7
3.休薬期間の間違い	7
4.投与日数の間違い	3
5.その他	2
計	28

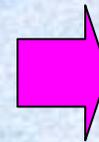


がん専門薬剤師の養成について

医療技術の高度化・専門分化の進展に伴い、各分野において高度な専門的知識を有する薬剤師の医療への関与の期待が増大している。

特に、がん治療においては化学療法が手術、放射線療法と並んで大きなウェイトを占めている。

「がん薬物療法」等の安全性と有効性を担保する、専門知識技能を有する薬剤師の医療への関与の期待が増大

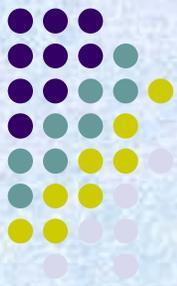


「がん薬物療法」等の専門分野の知識・技能を持つ薬剤師の養成が必要

声に出し確認
必ずダブルチェックをおこなう



抗がん剤の安全な使用体制の確立



がん専門薬剤師

- プロトコールに合致しているか？診療科・施用医師が登録されているか。
- 投与薬剤、投与量の計算はあっているか？投与方法（投与間隔・投与経路・投与速度は適正か？禁忌の投与方法ではないか？注入速度に注意すべき薬剤はないか？）
- 配合変化はないか？
- 併用薬剤で薬物間相互作用のある薬剤（特に禁忌）はないか？
- 副作用対策（吐き気やアレルギーに対するの対策はなされているか？）
- 血管外漏出の対応（重篤な皮膚障害を起こす薬剤の投与があるか？）
- 患者背景の把握（前治療がなされているか？総投与量に制限のある薬剤はその上限を超えていないか？）
- 患者教育（化学療法に対する説明がなされ、理解されているか？）
- 投与は適格か？（血液検査値、身体所見などで投与禁忌項目はないか？）



薬剤師による無菌混合調製の実施

がん専門薬剤師養成

日本病院薬剤師会が国の補助を受けて実施

専門薬剤師研修事業 114,913千円

概要

がん専門薬剤師認定制度の運営

がん専門分野研修(3ヶ月間の実務実習+講義)の実施

日本病院薬剤師会

がん専門分野において
カリキュラムの策定
受講者の決定
研修施設の認定
認定試験・更新審査

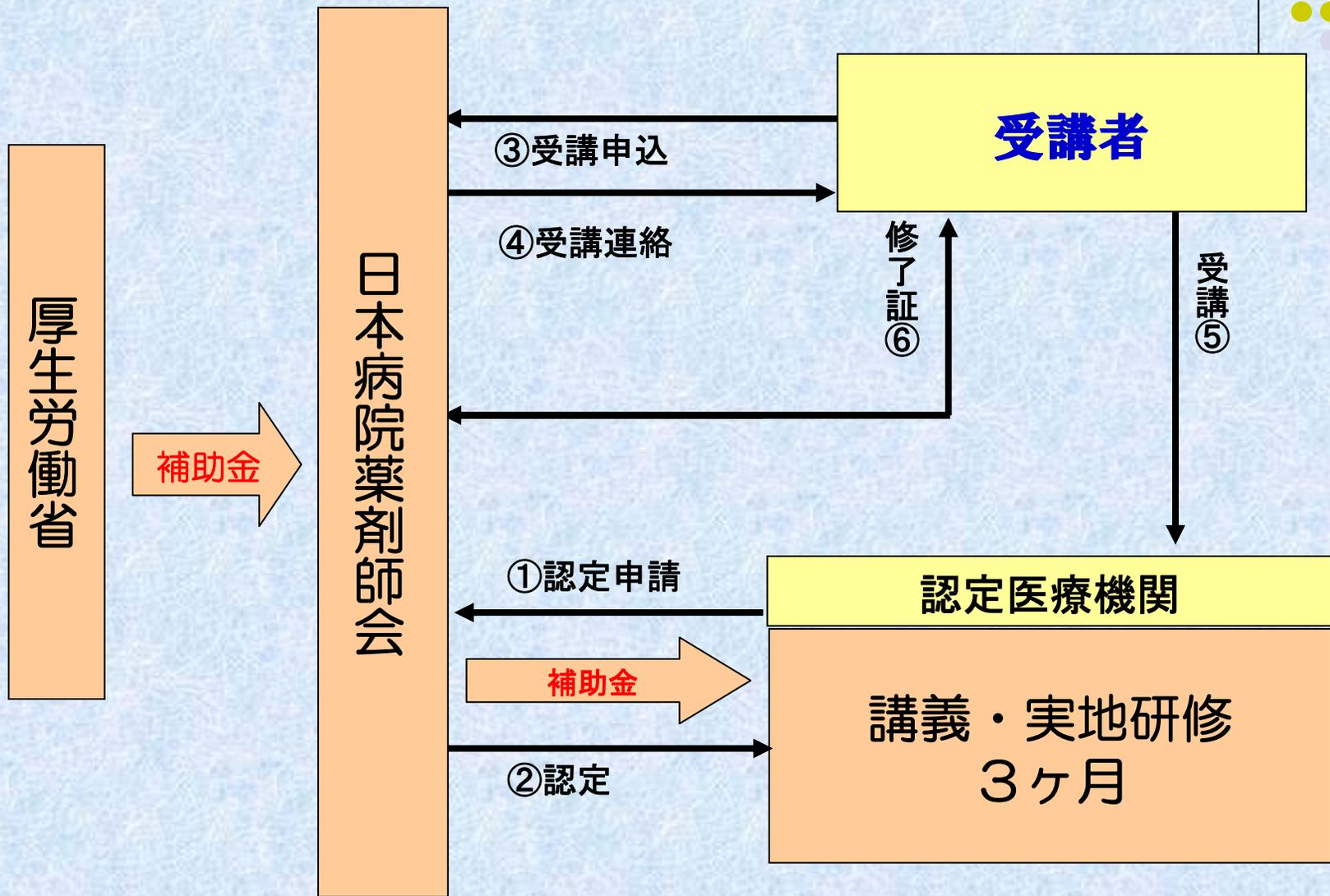
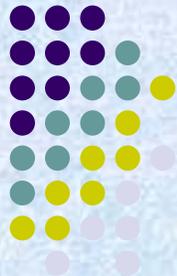
がんセンター

研修認定施設A

研修認定施設B

研修認定施設C

がん専門薬剤師研修事業



「がん薬物療法に精通した薬剤師」とは

(日本病院薬剤師会案)



- ・学会発表と学会誌等への論文
- ・認定試験合格
- ・所属長の推薦

がん専門
薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師であり、院内のがん薬物療法レジメンの作成評価管理、がん薬物療法認定薬剤師の指導など、高度の専門性を有する薬剤師

3ヶ月の実務研修と所定の講習の履修及び50症例の薬剤管理指導実績

がん薬物療法認定薬剤師

病棟業務（薬剤管理指導）、抗がん薬注射剤混合調製、薬物血中濃度モニタリング、緩和ケア等に精通した薬剤師

薬剤師